

## 「イノーの海について」

安里 充広

潮の引いた謝敷の浜に波がちょろちょろ打ちよせている。何とはなしに見つめているうちにこれがぼくらの心の原型（原風景）なのではないか、ふとそう思った。広大な太平洋の西端に位置し、アジア大陸の東の洋上に点々と砂粒のように列なる琉球列島。小さな孤島、石ころだらけの土、夏の干ばつと台風、モンスーンの温潤の気候が、この島に住みついた人々の性格を形造った。しかし何よりも靈魂とでもいえる心の有様を決定づけたのは、「イノーの海」だったのではないか。

この小さな孤島に住みついた祖先は、今とは比べものにならない程「イノーの海」に依存したのではないか。日々の食料を得る場であり遊びや生活の場として、彼方から豊穡をもたらす神々と交わる信仰の場として、朝に夕に豊かな美しい「イノーの海」を眺めていたことだろう。

亜熱帯の温暖な気候と黒潮の恵みに生まれ、リーフによって囲まれたイノーは穏やかでさわやかである。多様多彩の海の色合いに光や雲や空の青さを季節の移り変りや移す海面は、白い波のたわれむれる沖のリーフへ、彼方の水平線と見る人を解放感へと誘う。

竹富島のコンドイ岬の浜に立って足許を眺めたとき思わず（塩辛い海水であることを忘れて）手にすくって飲みたい衝動に駆られたそれは、この海の水の「清浄さ」と透き通りゆるやかにゆれる光に包まれた、イノーの水の不可思議な質感「透明感」がそうさせたのだ。この二つは美であって聖なるものへつながるものその出会いに感動したのだ。

外海の荒波やうねりは、沖のリーフに当たって砕かれ波立つさざ波となる。そして浜辺に打ちよせる頃には1cm程の可憐な「小さな波」となる。このような営みが長

い年月にわたって繰り返され、その潮騒と共にいつしか記憶の中心のひだにしみついのだ。

「イノーの海」の透明さは「無垢の心」に、清浄さは「善良」で「人の良さ」に、可憐で小さな波は「弱さ」「脆さ」「つつましさを「貧しさ」となって何か起きると意識の表層に現れるのだ。

沖縄人のやさしさとは、この「無三垢」「人の良さ」「小ささ」の暖かさを醸し出すのである。



安里 充広作品 「いつの日か」

今、沖縄本島北部のイノーは雨の度に流出する赤土で死の海と化している。中南部の海岸は、生活排水や空缶、プラスチック製品のゴミが散乱し、悪臭を放っているこの光景はぼくたちの心そのものを映してはいまいか。

琉球弧に住みついた人々は地域の人々よりも恵まれた自然の中で暮らしてきたのだと思う。この島に人々が住みつくようになったのは2~3万年前のようだが、非常に長い時間にわたって、貧しいけれど平和で安定した生活をしたの

ではないか。確かに小さな孤島、生産性の低い石ころのやせた土地毎年のように台風や干ばつに襲われることもある。しかし、亜熱帯の穏やかで四季を通じて豊かな恵の「イノーの海」があった。貧しくともつつしみ深く、足を知る生活をしていればやさしく暖かく、母の胎内のように無限の包容力でつつんでくれた。

この島に住む人々を今日まで慈しみ育ててくれた自然や「イノーの海」に今ぼくたちは牙をむきつかかりズタズタにして、あまつさえ唾を吐きかけることまでしている。山原の山は、ブルドザーによって赤い地肌を露出し雨の度に流出する赤土は、イノーを血の海にしている。ドライブやピクニックで食べた後の弁当箱や包装紙、プラスチックのゴミ、空缶は海岸や浜辺に投げ棄てられる。

島津の侵入以来外からの圧倒的な力に翻弄され踏みにじられてきたイノセンスとも言える赤子はその度に、傷つき、純粹無垢の心は変容してきた。ちょうど西洋に追いつき追い越せと西洋文明を取り入れた日本が、その成功と引き替えに傲慢となり、効率化を追求するあまり人間性を喪失してきたそのあとを、今ぼくたちは追いかけている。否ぼくたちが純粹無垢であるほど傲慢な日本人以上に悪に染まるのだ。戦前も戦後も外からの力に振り回され盲目的にひたすら生きてきた沖縄戦を生きのびてきた親達が、どうして戦争に巻き込まれたのか、これからどう生きたらいいのかを問いかけていたら今日のようなひどい状況にならなかったと思う。

1月26日の父親刺殺事件で殺された父親が、高校生の酒に追い込まれてゆく孤独の姿を思い浮かべると痛切にそう思う。ぼくたちの生き方が問われている今「沖縄の心」を育んだ自然やその心の原形（原風景）ともいえるべき「イノーの海」を残さねばならない。八重山や宮古には昔ながらの美しいイノーが今もある、そのイノーを残すことがぼくたちの役目だと思う。（あさと 充広）

郷土の損害保険会社

### 大同火災

〒900 那覇市久米2-2-20 TEL867-1161 (代表)

国場組グループ

### 國和會

会長 國場 幸治

# 『メディアを素材として』

≡ 時代を嗅ぐ作家 ≡

現代社会に溢れる情報をクールな視線で受け止め、その象徴となるものを取り出し表現活動をする花城勉さん。時代の変化と共に、常に新しい作品を作り続けていきたいという。そんな花城さんに語ってもらった。

G：今年2月、4月、10月（画廊沖繩WORK-II）と花城さんにとっては個展続きの1年ですね。作品のことや制作の周辺のことについてお話を聞かせて下さい。

花城：これまでは個展をやってもいいのかなという迷いがあったんですね。でもいったんやってしまうと、これはおもしろいという感じでどんどんやった方がいいんじゃないかと思っています。

学生の頃はこれといって自分の作風を確立したりすることはなくて、商業アートや内装を手がけたり、その中にオブジェを作ったりしてたんです。だから作家になるつもりはなかったです。どちらかというとデザイナーになりたいと思ってました。でも学生生活を過ごしていくうちにこれでいいのかなと疑問を持つようになりました。普遍的なものを作りたい、そのときに作家になろうと思ったんです。

◆◇

G：作品になっているものが辞典や電話帳などを使ったり、腐食剤でサビさせていくことに時間の流

れを感じさせるものがあるのですか…。

花城：サビというのは腐敗していくことを言いたいのではなく、例えば今流行っているものや考えが次の瞬間でまったく別の価値観で動いていくことを表現したかったわけです。僕の作品は現時点で作っているものなんですけれど、それを数十年後の未来から見たときのイメージでもあるんです。

流行っているのもおもしろいですよね。みんなが知ってしまうと



花城 勉作品「2HDx5=7.0 MB」

流行ではなくなるというか、走りがあるから流行と言うのであって例えば、サッカーが流行っていてサッカーファッションとかしてるけど、みんながやってしまうとメジャーになって流行とは言わない。マイナーがあるからあるから流行があるわけです。

G：今何が流行っているのか、興味があるし、それは作品作りにも

影響されるんですね。

花城：いろいろなどころから情報を集めますが、特にテレビのCMはおもしろいです。商品を間接的に何か別のものを使ってアピールするCMが流行っていて例えばカップヌードルのCMは原始人やマンモスを登場させて、最後のシーンで商品をアピールしているでしょう。食べることとか離れたところからストーリー性でもってインパクトを与えるわけです。このCMも僕は出る前にこうしたらおもしろいだろうと想像していたんです。

G：先をよむ目があるんですね。  
花城：そう言うと自信過剰と思われるかもしれませんが、実際そういうことが結構ありますよ。CMに目がいくようになってしまったのは学生時代で、その頃はアートディレクターの仕事をしてみたいと思っていました。でも、結局は消費されていく運命でしょう。昨日みたCMはミネラル入りのシャンプーのCMでしたね。はっきり言ってシャンプー自体の効力はあまりないと思うんですけど、天然的なイメージでアピールしてるわけですよ。

テレビをみるのはCMやニュース、プロ野球、あとは情報番組ですね。そういう情報番組から作品のモチーフを触発されることがあるんです。現代社会の表層を扱っているんで、日本や世界で起こっていることや自分自身の回りで起こっていることにモチーフがあふ



ひとにいつも新しく—生活共創企業  
**りゅうせき**

本社：沖縄県浦添市西光2-2-3 〒901-21  
TEL 098-875-5000 FAX 098-875-0270

地元のビールが断然うまい  
最も新鮮

**オリオンビール**

れています。その中から象徴的な出来事とか、思想とかを抽出するのは大変ですね。それを客観的に拾って行って、発表も絶え間なくコンスタントにやっていかなければならないわけです。もし平和な時代で何もなければ僕の作品はできないでしょうね。

## 現代社会と情報

G：花城さんは現代社会にあふれている情報を見つめ敏感に反応する事で、その時代の断片を表現しているような感じがしますが。

花城：10月の個展では栄養ドリンクを作っているんです。グロンサンとかりゲインなどです。栄養ドリンクを飲んでその力をかりて働くというのは、30年ぐらい前には考えられない事ですよ。現代社会には必要なものなんです。この延長線で、将来的には脳にIC盤みたいなものをつけることでもっと力をつけるとか、栄養ドリンクというのは象徴的なことだと思います。薬局に行くと栄養ドリンクは何百種類と並んでいるでしょう。社会の複雑化とともに必要になってくるもので、休ませるべき身体にドリンクを飲むことで興奮させるわけでしょう。象徴的な飲み物だと思います。

マルチブル的なものを作っているんです。



G：これからの展開としてどのような作品を作っていきたいですか。

花城：どんどん新しいものを作っていきたい。「NEW」という言葉が好きなんです。最近の作品では腐食液を使っているけれどこれも毎回使っていると、形式的になってくるわけで、形式と言うのは新しいくないでしょう。だから絶え

ず新しい展開を考えていきたい。現代社会にコンセプトを置いてあるから、作品の素材とかはどんどん変えていきたいです。とにかくマンネリ化はしたくないんです。でも腐食液を使ったのは自分自身では新しい発見だと思っていたんだけど、結構使われている作品があることを知った時にはショックでしたね。



G：気になる作家、刺激を受けた作家はいますか。

花城：たくさんいますけど、芸能界で誰が好きか聞かれたら答えるのは難しいように、1人あげなさいといわれたら言えないですね。強いてあげるならウォーホルやス



花城 勉氏 (はなろ けん)

### プロフィール

- 1966 那覇市に生れる
- 1991 沖縄県立芸術大学卒業
- 1993 県展入選
- 1994 個展 (ギャラリー神話)
- 沖展入選
- 二人展 (那覇市民ギャラリー)
- ゆうさき 美術賞入選
- 県展入選
- 個展 (GALLERY WORK II)

テラはすごく影響された作家ですね。ウォーホルの場合は作品自体はカッコいいとは思いませんが、人物がかっこいいですよ。人物自体が美術作品だと思ぐらい、ウォーホルが映像で映っているシーンやワイングラスを持っているところとか、写真とか、作家自身に興味がありますね。

高校生の頃とかはモダンアートやポップアートに影響されましたが、もう古いですよ。

カッコいい作品を作りたいんですよ。情感に訴えてくるようなものではなくて、感覚的に入ってくる感じの「カッコいい作品」ですね。「カッコいい」という表現は簡単な言葉だけれど、「感覚的」に受け止めることだと思うんです。それに理由を求められると概念の世界に入ってくるんで、そうではなくて直接的に訴えてくるようなものなんです。

G：現代美術から現代社会の流れを感じたりするわけですが、どのように見ればいいのか分からない、分かりづらいというのが現代美術にはあると思うんです。花城さんのいう「カッコいい」という感覚的に受け止めることは現代美術を見ていくときのキーワードのような感じがします。

## 現代美術について

花城：僕は作品を見ていくときに概念なんて必要ないと思いますよ。批評をどんなふうにも書いても作家自身はそうじゃないかもしれないし、現代美術に意味性を求めてしまうと、ちょっと違うんじゃないかなと思うんですね。例えば、ある人が僕に、この彫刻をカッコいいと言っても、どこがかっこいいのかいくら説明したところで、ど

基礎から学ぶ

●成画 ●デザイン・工芸 ●彫刻 ●版画美術 ●基礎 ●芸術教育

芸大・美大 受験予備校 **沖縄美術アカデミー**

画材

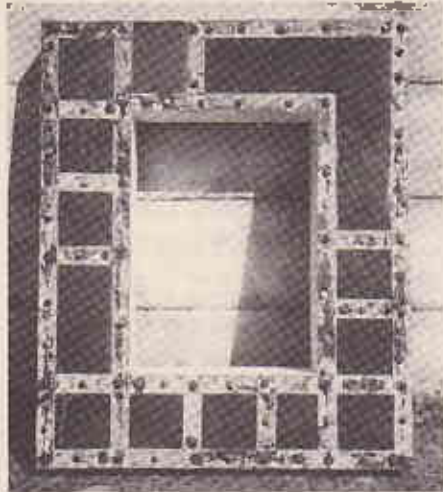
3F：画材フロア

陶芸用品

額縁制作

CULTURE PLAZA  
**藝みつや書店**  
032 外堀町東町1-1-301(03) 653-1650  
ファクシ 03(03) 661-0316

れだけ伝えられるのか言葉の限界があると思うんです。大げさな言い方かもしれないけれど、僕の育った環境と相手の育った環境の違いを埋めることは出来ないわけです。現代美術の感覚的なものは概



花城 勉作品「on paper」1994年

念とか意味性とか必要ないんじゃないかと思う。だから多分、現代美術は概念とか必要だというのは裏付けがないと表面的になってしまうから、武器として理論があるような感じがするんですね。

G: 現代社会がどんどん複雑化し現代美術の表現自体も混沌としている。その中に意味性を求めてもはっきりとした答を探しだすことができない状態があるような感じがするんですが。

花城: 現代美術の表現が混沌としているのは、これまでの歴史の中で出つくされてきて、これから新しいものを表現しようとするとかピーの美学だとか、引用の哲学だとか、何でもありの世界ですよ。



G: 現代社会は情報に溢れいて、テレビやコンピューター、テレビゲームにしても1人でも十分に楽しめるし、その中では言葉もいらないうけでしょう。最近は疑似体験の世界も発達してきているし、

この先どうなるのか、怖い感じもするのですが、そこら辺、花城さんはどう考えていますか。

花城: テクノアートとかメディアアートですよ。宮前正樹とか宮島達男とかはおもしろいですよ。でも行き過ぎるとオタク的というか自己満足の世界ですよ。アートは社会との関わりがあって成立するものだと思うんです。テクノロジーの発達とともにどんどんテクノアートの方向に進んでくと思うんですよ。でも、美的な表現からはすれてしまうと苦しいと思うし、美術の表現というのはある程度分かる表現でないといけないと思う。

今、水戸芸術館でやっているジェニー・ホルツァーという作家が言葉のアートをやってるんですが社会現象を電光掲示板で綴っているんですね。このようなアートはとでも分かりやすいしおもしろいと思います。



G: これからどのような制作活動を続けていくのか聞かせて下さい。

花城: 個展はコンスタントにしていきたいし、どんどん公募展にも応募していきたいと思っています。制作をしていくことに関しては、沖縄、東京、外国等関係ないです。予備校時代に東京に2年間過ごしていたこともあるんで東京の方には今でも1年に2、3回は行って展示会を見たりいろいろと情報を集めたりしています。

### 沖縄という場

G: その点では沖縄を意識して制作をしていくことや沖縄という場所にこだわってはいないんですね。  
花城: 今は東京も沖縄も変わらない

い感じがします。特に沖縄らしさとか、それを作品のモチーフにするとかはないですよ。僕らの育った世代はほとんどがブロック建築でしょう。だから赤瓦とかシーサーとかに郷愁や感動は感じないんじゃないかな。反戦平和とか、復帰とかに関しては意識してなかったことはないです。僕らの育った時代はテレビから東京や世界中の情報がどんどん入ってきたし、その中で沖縄の独自性とか、沖縄を意識するような環境はなかったんじゃないかな。

G: 意識的には薄いかもしいけれど、沖縄の琉球の歴史を知ることが大切なことだと思うんですが。

花城: 僕らの世代でも沖縄の赤瓦とかを描いている人達がいるんですが、これはひとつの型(スタイル)で描いている感じがするんですね。

工芸はいいものをもっていると思いますよ。漆器とか陶器、紅型とか沖縄独特のものでしょうか。それに比べると絵画とか彫刻は歴史が浅いんですよ。油画と日本画と現代美術があってそのなかで沖縄の独自性を見つけるらるるとしたら、現代美術だと思う。現代美術は表現が自由だし、例えば赤瓦を砕いて画面に付けたり、赤土を使うとかいろいろな表現の方法があると思うんです。

沖縄らしさを表現する場合に現代美術が一番近い位置にあると思います。



G: 歴然なんですけど、作家になろうと思ったきっかけはいつ頃起こったんですか。

花城: もとをたどれば美術に進んだきっかけは、中学2年のころにYMOに出会ったことです。音楽

忠孝酒造

—よりよいお酒づくりがテーマです—

## 眠れる壺の美酒



art  
ART GALLERY OKINAWA

絵画の専門店

### 画廊 沖縄

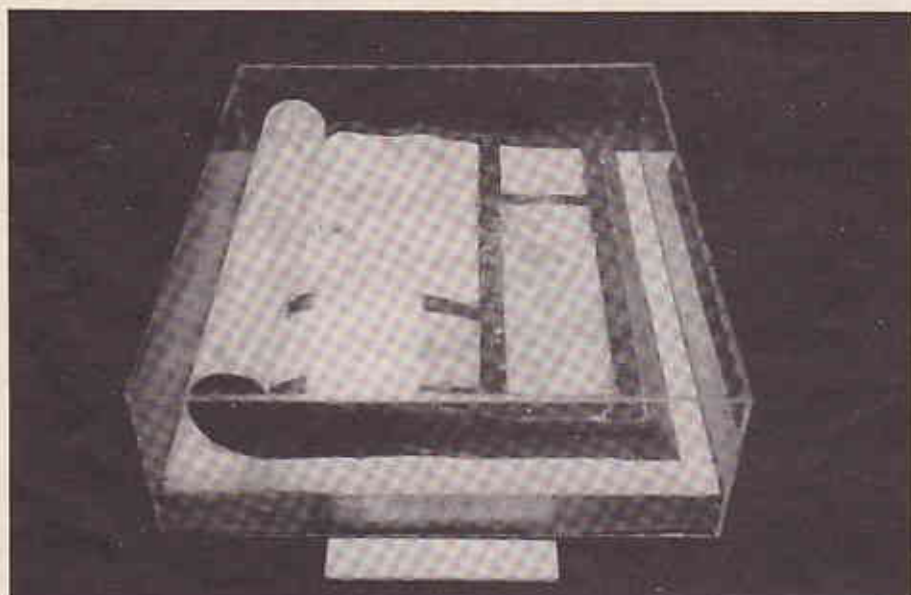
〒900 沖縄県那覇市泉崎2-2-3  
TEL 0988(34)6760  
FAX 0988(55)7933

自体も人間が鍵盤をたたいてだすピアノの音やギターを弾くというよりも電子音楽、コンピューターのだす音に興味を持ったし、YMOのが日本よりもロンドンでのデビューが先で逆輸入という形ではいつてきたこともかっこいいと思ったし、ジャケットデザインを奥村幸正という人が手がけていて、その作風が好きだったんです。パウハウスとかドイツ至上主義とかロシアアヴァンギャルドに影響された人なんです。僕もそれに関する本を読んだりしました。その頃の影響もあって、僕の作品は構成的

.. AMBIENT, TRANCE) は機械的なリズムのくり返しが現代社会の大量生産や大量消費を象徴している感じがするんです。単調なリズムのくり返しが感覚的で、聞いていると気持ちが高揚してくるんです。ロックのように体を動かして汗を流すのではなく、脳に直接うったえてくる感じですね。

G: 花城さんの作品には単調なリズムの流れがあってその中に激しい動きや汗は似あわないし、自分自身で体を動かすよりも機械に任せてしまう感じですね。

花城: マルチプルな感じでなんで



花城 勉作品「lab-information」 1994年

で直線的なところがあります。

僕の作家になるきっかけはYMOというグループと出会ったことごとだと思えます。YMOの電子音楽というのはその頃の僕にとってはずごく新鮮だったし作家になるきっかけとともに、音楽の世界に興味を持ちました。最近ハウスマジック(電子音楽)とかジャズをよく聞いています。芸術作品を見るよりも刺激される部分がありますよ。

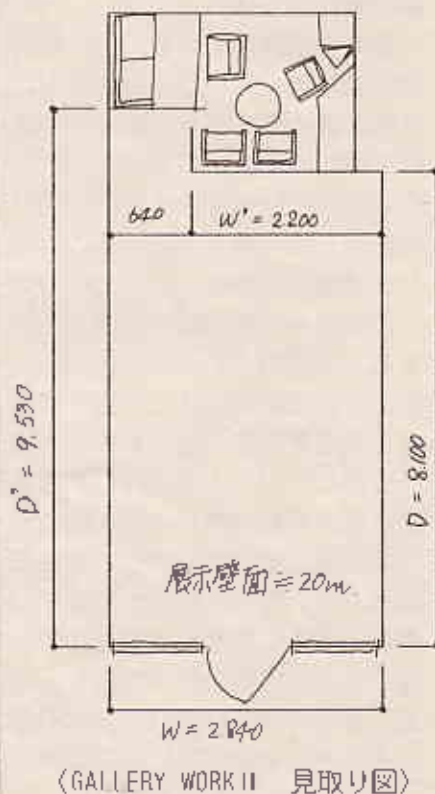
特にハウスマジック(DEEP

す。汗水垂らして頑張っているというのは僕の感覚にはあってないと思う。

G: 花城さんの作品は現代社会に溢れるさまざまな出来事をクールな視線で客観的に受け止め表現をしていく。これからの時代の流れと共に花城さんの作品もどんどん変わっていくと思います。頑張ってください。今日はどうもありがとうございました。10月のギャラリーワークIIでの個展楽しみにしています。(ギャラリーワークIIにて)

## GALLERY WORK II 貸画廊案内

- 期間: 6日間(月~土)  
AM11:00 ~ PM7:00  
※6日間単位として2週間の利用可
- 使用料金: 1日(1万円)  
※アシスタント付きの場合  
1日(1万8千円)
- 搬入・搬出: 土曜日  
PM6:00より搬出  
PM7:00より搬入
- 原状回復: 使用終了後は、備品等を現状に戻して下さい。  
(壁面に釘の使用可)
- 付属品: 彫刻台10個  
(W35 × D35 × H80)  
スポットライト  
湯飲み道具等。
- DM(案内状): DM作成費・DM郵送費は作家負担  
※DM作成費用・1000枚(3万円)  
(版下制作費・7千円込み)  
画廊にて版下を作成する場合の文字はワープロ文字  
※DM用写真は作家持ち込み
- 申込先(詳細)は下記までご連絡下さい。☎855-7933



●展示会用の額縁リースも承ります

額縁・掛軸の専門店

# 前田額装商会

〒900 那覇市松尾 2-7-29

☎ 098 (867) 4811  
FAX 098 (861) 0367

## Opinion

### 「県立美術館騒動」

稲福 薫（公務員医師）

ガンジーがお寺に再下層のカー  
ストの人たちも入れるように運動  
したということに、かのクリシュ  
ナムルティは言いました。そんな  
ことはどうでもいいことなんだ。  
あんなところにそもそも真理はあ  
りはしないのだからと。

芸術家たるもの「つまらない美  
術館を作ろうとするならさすれば  
いい。わたしの知ったことではな  
い。」と涼しい顔をしていたのだ  
が、ちょっと騒ぎすぎるのでは。  
「美術館は必要なのか」ではなく  
「美術館は必要なのだ」という前  
提つきの騒ぎは国や県の予算獲得  
競争の際にきまってる茶番劇に  
酷似している。

芸術を追及している人間が美術  
館にこだわっているとすればそれ  
自体が彼の限界性を証明している  
のではないか。ましてやシンポジ  
ウムなどといって数を集めて自分  
たちの主張を通そうとすることな  
ど政治屋にまかせておいたらいい  
。百歩譲って美術館が必要だとし  
ても、御上のふところをあてにし  
ないで自らの顔に汗してみすばら  
しくても美術館らしいものでも作  
ろうとしている人間の方に共感を  
感じる。それに対して美術館ねだ  
りの運動に何のインパクトがある  
のだろう。取って付けた様なアジ  
アとの美術交流なんて話も妙で、  
真に交流が必要と思うならそんな  
御託をならべていないで自らの足  
でさっさとでかけているだろう。  
ゴーガンがそうしたように。

芸術家が真理を追及する人間で  
あるなら、もっともらしいスロー  
ガンなんか掲げて徒党組んでない  
で自ら、自分の生と美術館の關係  
を真摯に問うだろう、県の予算に  
そろそろたかってくる蟻達と一線  
を画して。国境を越えれば難民や  
飢餓が目前の現実という厳しい世  
界の状況を尻目に美術館ごときで  
騒いでいる芸術家が本当に時代を  
切り開く普遍的な感性を表現でき  
るのか疑問である。

### ギャラリーウーマン

#### フェミ男君

俗語ではあるが「フェミ男君」  
というのをご存じだろうか。フェ  
ミニン（女性的）な男性のごとで  
ファッショナブルで少々女っぽい  
仕草、異性からは友達感覚で付き  
合える人の事を、今はそう呼ぶら  
しい。（ニューハーフとはちが  
う）周囲に必ず一人はいると思  
う。

今まで日本では考えられなかつ  
たゲイのパレードが、今年の9月  
に東京であった。フェミ男君に対  
する世間の認知もあった。その事  
は、ずっと多数派におされ息を潜  
めていたマイノリティー（少数  
派）の意識が、市民レベルでたか  
まってきたのだろう。

世の中がマイノリティーを抑え  
続けていた間も、美術ではすでに  
少数民族色豊かな作品等を芸術性  
の高い作品として認識してきた。  
これからは、それらを独自の表現  
と複合し超越した世界を表現する  
ということ、世の中がめざすべ  
き道標を人々に示唆することにな  
るのではないか。それは、近代主  
義を超越した動きといえるだろ  
う。

テゲエ主義ではないけれど、  
沖縄の人達にはマイノリティーを

抵抗なく受け入れる風潮が、日本  
のどこよりも強い気がする。きっ  
とウチナンチュ自身がマイノリ  
ティーだからだろう。となると沖  
縄から世界へ飛び立っていくアー  
ティストの出現は、決して遠い未  
来のことではないように思える。

（きんじょう けい）

## GALLERY WORK-II

企画案内

OPEN AM11:00~PM7:00

### 花城 勉 展

●10月17日（月）～10月22日（土）

### 安慶名 克子 写真展

●10月31日（月）～11月5日（土）

### 丸木 位里・俊 展

●11月14日（月）～26日（土）

### 湯 小胤 展

●11月28日（月）～12月3日（土）

### 金城 満 展

●12月5日（月）～12月10日（土）

### 編集デスク

最近やっと秋らしい風が心地よ  
く感じるようになりなりました。  
芸術の秋にふさわしく11月23日に  
宜野湾市に佐喜真美術館がオープ  
ンします。館長は佐喜真道夫さん  
ケーテコルビッツ、ルオー、丸木  
位里・俊など社会性の強い作品を  
主なコレクションとしています。

佐喜真美術館のオープンを記念  
して11月14日～26日までGALLERY  
WORK IIにて丸木位里・俊展を行  
います。

オビエオンコーナーへ皆さんの  
投稿、寄稿をお待ちしています。

（当間）

### WANTED!

あなたの広告を待っています

本紙 サ・ギャラリー ☎098(855)7933

## GALLERY WORK-II

◇現代アートに開かれた空間◇  
◆ 入場料 1日 1万円(1週間単位) ◆